



Title	木材の結核菌しろあり
Author(s)	和田, 清孝
Citation	makoto. 1973, 2, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86282
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

しろあり防除に従事いたしております一員として、私の感じますことを、思いつくままかいてみました。

春風と共に若葉のもえる頃ともなれば、冬眠をむさぼっていたしろあり族も、時節到来とばかりに一生活をかけての生活と子孫繁殖の自然の方式に従って、活発な活動を展開するものであります。しろありは木材の内部を静かに深く潜行しながら食害し、表面にはなんらの食痕を

木材の結核菌しろあり

中央出張所 和田清孝

見せないで、なかなか人目に付きません。大抵の場合、有翅虫「羽あり」の飛びたちを発見して慌てて、防除の相談が殺到するのが現状であります。その時は既に、相当な被害を受けていることが数多くあります。木材は古くならな

いと「しろあり」にやられな

が、被害を受けていた実例が
ありまして、早速調査いたし
ました処、浴室タイル下の土
と土台が接触している為に、
土台が湿潤になり、土中より
「しろあり」が、土台に侵入し
被害をあたえていたのであり
ます。このように、しろあり
は日光を嫌い暗くて適当な温
度と湿度を好む習性がありま
すので、そのような場所ほど
こでも「しろあり」の被害を
受ける虞れがあるわけです。

駆除のみでは被害を大きくは
しないが、完全になくするこ
とは出来ません。それ故、さ
らに肝要なことは被害を受け
ない前に予防措置を施してお
くこととあります。その具体
的な方法はしろありの種類、
棲息状況、立地条件、附近の
被害状況、建物の規模などを
考慮すべきでありまして、一
般的に言えますことは、建物
の構造方法の配慮と併用して
木材の薬剤処理を行うことで
あります。小さ

い虫だと馬鹿に
しないでわが家
の為、真剣にし
ろあり対策につ
いて考えるべきではないでし
ようか。――終――

